

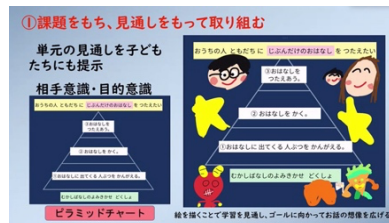
7月8日（金）のアイデア発表会では、熊本市立榎木小学校の都田雅美先生「『書くこと』におけるICTを使ったちょっとアイデア」を熊本市立月出小学校の田邊友弥先生と熊本大学教育学部附属小学校の溝上剛道先生から「ふりかえり」について発表をしてくださいました。

【榎木小学校 都田先生のご実践から学ぶ】

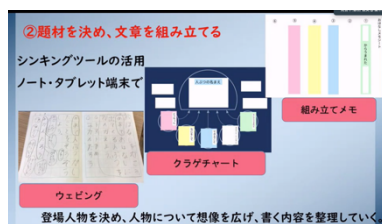
都田先生は、東京書籍1年生「おはなしをかこう」のご実践を発表していただきました。

① 単元の導入

「だれにじぶんがかいたおはなしをよんでもらいたい？」と尋ね、対話を通して相手意識と目的意識を持って1年生の子どもが学習に臨むことができたようです。



② シンキングツールの活用



単元の中で様々なシンキングツールを活用されてきました。シンキングツールを使う際にいきなり使うのではなく、教師が事前の指導をしっかりと行い子どもたちが安心して学習に取り組むことができていたようです。

また子どもたちが書いたシンキングツールを比較して子どもが自ら新たな気づきを獲得したり、自分の考えを再構築したりできていたようです。

③ 組み立てメモから文章に

構想メモにもタブレットを活用することで、短冊の順番を入れ替えたり、回答共有することよいモデルを参考にしたりして子どもが考えの再構築することができるようにされていました。また下書きが終わったあと、まずは、モデル文を掲示して話をしながら全体で一緒に推敲をしていくことを1つ入れることで1年生にもわかりやすく推敲の指導をされていました。

【田邊先生・溝上先生のご実践から学ぶ】

田邊先生と溝上先生からは、「ふりかえり」についての実践を発表していただきました。

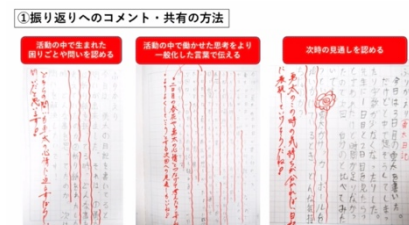
① 振り返りの視点

振り返りでは、「今日の学習で何をしたのか」「今日の学習でどんな思考を働かせたのか」「次時の学習への見通し」3つの視点から振り返りを行わせるといえることが必要だということです。振り返りでは、自分の頭の中をいかに言語化するということが大事にされていました。

「次時の学習への見通し」では、子どもが「ここが少し疑問に残った」と書いたなら次時の学習でしっかり解決させるように、その子の学びたい気持ちをしっかり時間を設けて保証する。子どもが思いや願いを持つように学習内容や活動を工夫する必要がある様子です。

② 振り返りに対するコメントの書き方

振り返りに対しては、3つの視点を持ってコメントを書くことを大事にされていました。不十分な振り返りでも「どうしてそう思ったのかな？」「どうやって考えたのかな？」など書くことで少しずつ振り返りの内容も充実してくるとのことでした。



③ 日記形式での振り返り

溝上先生からは、日記形式で振り返りを書く良さについてお話をいただきました。振り返りに題名をつけることで本時の学びを凝縮させることができることでどの子も楽しく振り返りを書くことができるようです。大事なことは、振り返りを書くって面白い、振り返りを書いてよかったと子どもが実感することができるようになることですね。